



発達性ディスレクシアのある 子どもにどんな支援を したらいいの？

読んだり書いたりすることの苦手さについて、
本人が何に困っているのかを聞いて支援して下さい。
診断されていなくとも支援が必要な
子ども達が少なくありません。
通常の学習法では効果を認めにくいので、
その子に合った学習上の工夫が必要です。
具体的な対策としては以下のことが考えられます。

- ・宿題の量の調整（本人と保護者との相談）
- ・ふりがな（ルビ）の活用
- ・先に読み聞かせをし、徐々に手助けを減らしていく
- ・板書された文字を写すのはとても大変なので、必ず音読をして理解を助ける、または漢字にルビを振った配布資料を活用するなど
- ・テスト時の時間延長や問題文中の漢字へのルビ、漢字で書くべき単語をひらがなやカタカナで解答した際の採点上の配慮
- ・必要に応じて読み上げソフトや電子辞書、タブレットの活用

**一人一人違うので
その子に合った支援を！**

制作 宇野彰（筑波大学） 春原則子（目白大学）

誤解されることの多い症状

以下の症状は発達性ディスレクシア特有の
症状ではありません。

- ・字の形が整わない
- ・不器用だったり、
運動が苦手だったりする
- ・不注意である
- ・整理整頓が苦手である
- ・時間の管理が苦手である
- ・場や空気が読めない
- ・こだわる傾向がある

ただし、他の発達障害を併せもつことがあります。
（発達性ディスレクシア研究会のHPより）

学習障害

って
なあに？



学習障害とは？

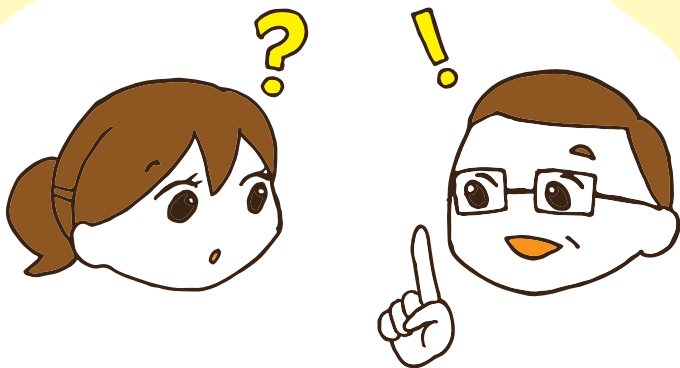
学習障害は...

- 全般的な知的発達に遅れはない
- 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す

原因は...

- 中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されている
- 視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない（文部科学省 1999 より）

学習障害の中核群は
発達性読み書き障害
(発達性ディスレクシア)
です。



発達性ディスレクシアとは？

発達性ディスレクシアとは、小学校入学前後に明らかになる障害で、読んだり書いたりすることに困難を示します。脳の一部に働きの弱い部位があることに起因していると考えられ、育て方の違いによっては起こりません。文字や文字列を音や音列に変換（音読や頭の中で音にしている段階も含まれます）したり、逆に音や音列を文字や文字列に変換（聴写、書取）することが正確にできなかったり、スムーズに行うことが困難です。こうした困難さは、言語音での処理力の弱さや、視覚的に形態を捉える力や、形を記憶する力の弱さなどが原因になっています。学習内容を習得していないことや、練習していないことが直接の原因にはなりません。

まず気づくことが大切！



読む

- ひらがな、カタカナを読み誤る
例 促音『^{そくおん}きって』▶「きつて」
拗音『^{ようおん}ちょ』▶「ちよ」
長音『^{ちようおん}こうてい』▶「こ・う・てい」
助詞部分、語尾
形や発音が類似している文字
『シ』と『ツ』、『d』と『b』など
- 漢字を読み誤る、もしくは読めない
- 文章の読みがたどたどしく時間がかかる



書く

- ひらがな、カタカナを書き誤る
促音、拗音、長音、助詞部分、語尾、
形や発音が類似している文字など
- 文章を書く際、ひらがなの使用が多い
- 口頭で言えたことを、文章で同じように書くことが難しい
- 文字を書くことに時間がかかる



読み書き

- 板書された文字列を正確に写せない
- 板書された文字列を写すのに時間がかかる